

第19回渋沢栄一賞受賞者について

(五十音順)

◇辻 信太郎 (つじ しんたろう) 氏 (93歳)

株式会社サンリオ (東京都品川区)
代表取締役会長

※会社概要 ソーシャル・コミュニケーション・ギフト&カード事業
1960年創業 従業員数672人



<受賞理由>

(優れた経営)

- ・ 「みんな仲良く」の理念で創業しハローキティなど多くのキャラクターを生み出す、東京と大分にテーマパークを展開、1984年東証第一部上場
- ・ 『キタキツネ物語』等の映画・著書多数、1977年『愛のファミリー』で米国アカデミー賞(最優秀長編ドキュメンタリー賞)受賞、1975年創刊『いちご新聞』で友情や平和へ心温まるメッセージを送り続けている

(社会への貢献)

- ・ 1990年(公財)辻アジア国際奨学財団(現・辻国際奨学財団)設立、友情重視の理念に基づいて運営し30年間に787名へ総額16億3662万円を支給、発展途上国への協力と親善に貢献

◇鳥羽 博道 (とりば ひろみち) 氏 (83歳)

株式会社ドトールコーヒー (東京都渋谷区)
名誉会長

※会社概要 コーヒーの焙煎加工・卸売販売等
1962年創業 従業員数883人



<受賞理由>

(優れた経営)

- ・ 創業者として、国内グループ総店舗数1,301店を展開する企業に成長
- ・ 2000年に東証第一部に上場
- ・ 国民の食生活・食文化の向上に対する功績などにより、旭日小綬章を受章

(社会への貢献)

- ・ 「ドトールありがとう募金」により23校の小学校をカンボジアに寄贈、東日本大震災などの各種災害に対する募金活動を実施、総額約2億4,470万円を寄附
- ・ 2016年障害者雇用野菜農園「D-FARM」を開設し、障害者と高齢者の就労機会を創出
- ・ 郷土深谷へ多額の私財を投じ、5度にわたり紺綬褒章を受章
- ・ 渋沢栄一アンドロイドの製作を発案し、深谷市に1億円を寄附

◇三林 憲忠 (みつばやし のりただ) 氏 (67歳)

ヤマモリ株式会社 (三重県桑名市)
代表取締役社長執行役員

※会社概要 食品製造業
1889年創業 従業員数 774人



<受賞理由>

(優れた経営)

- ・ 社長就任時から売上高を2.5倍に成長させ、多分野における食品製造・販売の拡大
- ・ 1988年タイへ進出、日本同様の事業体制を確立し、海外しょうゆ工場として初のJAS認定工場に
- ・ 独自の醤油醸造技術により「ギャバ」を生成、醤油では日本初の機能性表示食品に認定

(社会への貢献)

- ・ タイと日本の相互の食文化交流に20年以上注力
- ・ 障害者の雇用に社を挙げて取り組み、2017年度には(独法)高齢・障害・求職者支援機構の理事長努力賞を受賞
- ・ 桑名市公共施設「ヤマモリ体育館」のネーミングライツ・パートナーシップ制度に登録